

平成29年度 第8回

大玉村小中学生広島平和記念式典派遣事業

報 告 書



平成29年8月5日(土)～7日(月)

大玉村教育委員会

平成29年度 第8回 大玉村小中学生広島平和記念式典派遣事業報告書

目次

○ 研修の目的及び事業経過報告	1
○ 第8回派遣事業概要	3
○ 団員報告書	
・ 団員 武田 彩香（大玉中学校3年）「未来へ伝え続けること」	7
・ 団員 鈴木 遥介（大玉中学校3年）「広島研修に参加して」	8
・ 団員 高橋こころ（大山小学校6年）「つなぎたい，平和への思い」	9
・ 団員 佐々木倖汰（大山小学校6年）「核兵器のおそろしさ」	10
・ 団員 金 那奈世（玉井小学校6年）「今の私ができること」	11
・ 団員 佐藤 玲那（玉井小学校6年）「他人事としてとらえないために」	12
・ 団長 相沢 周（大山小学校教頭）「平和な未来を築く」	13
・ 引率団員 神野藤玲子（大玉村教育委員会 学校教育係長） 「多くの人に広島を訪れてほしい～「戦争」を語り継ぐということ～」	14
○ 資料	
・ 大玉村立小中学生広島平和記念式典事業実施要綱	16
・ 事前説明会・研修会要項	17
・ 結団式要項	18
・ 報告会要項	19
○ 派遣団員名簿	20



平成 2 9 年度
第 8 回大玉村小中学生広島平和記念式典派遣事業概要

研 修 の 目 的

- 1 研修を通して、平和の尊さ、核兵器の悲惨さとその廃絶の必要性を認識する。
- 2 平和記念式典に参列し、原爆死没者を慰霊するとともに、恒久的平和を祈念する。
- 3 東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故にともない、全国から支援を受けた者として感謝の気持ちを持つとともに、放射線の影響を受けて生活する者として、核や原子力に関する知識や考えを深める契機とする。
- 4 研修終了後、報告書を作成し、研修成果を村民に報告する。
- 5 研修に参加する児童・生徒相互の交流を深める。

《大 玉 村 の 取 り 組 み》

1 9 8 6 年（昭和 6 1 年） 8 月 1 日非核宣言をした。

1 9 8 9 年（平成元年） 1 月 大玉村地区労働組合連絡協議会により役場駐車場北側に反核平和の碑が建立された。

2 0 0 9 年（平成 2 1 年）広島市長の呼びかけにより、核兵器のない平和な世界の実現に向け、平和市長会議に加盟した。

2 0 1 0 年（平成 2 2 年）より、児童・生徒の代表が広島平和記念式典に参加し、今年（平成 2 9 年）で、8 回目を迎える。

平成29年度 第8回「大玉村小中学生広島平和記念式典派遣事業」経過報告

- 大玉村小中学生広島平和記念式典派遣事業実施要綱の制定
(平成22年第5回(5月)大玉村教育委員会定例会)
日時:平成22年5月19日(水) 午前9時～
場所:大玉村農村環境改善センター 会議室
- 派遣対象者決定通知
期日:平成28年12月8日(木)
- 平成28年度子ども的人権フォーラム2016
日時:平成28年12月10日(土) 午前9時30分～
場所:大玉村農村環境改善センター
- 事前説明会・研修会
日時:平成29年7月18日(火) 午後6時30分～
場所:大玉村農村環境改善センター 2階 視聴覚室
- 結団式
日時:平成29年7月24日(月) 午後6時30分～
場所:大玉村農村環境改善センター 1階 多目的ホール
- 研 修
期間:平成29年8月5日(土)～7日(月) 3日間
場所:広島県広島市
- 報告会
日時:平成29年9月22日(金) 午後6時30分～
場所:大玉村農村環境改善センター 多目的ホール



第8回 大玉村小中学生広島平和記念式典派遣事業概要

【8月5日（土）第1日】

6:15 本宮駅集合（各自） ※ 参加者確認、健康観察
6:20 出発式（見送り：教育長、教育部長、教育総務課長、社会教育係長、鈴木大玉中校長、渡辺大山小校長、伊藤玉井小校長、渡邊大玉中教諭、指導主事）
○開会 ○教育委員会から ○団長あいさつ ○出発あいさつ（金 那奈世）
6:33 本宮駅 発 → 6:49 郡山駅 着
7:04 郡山駅 発（やまびこ204号） → 8:36 東京駅 着
8:50 東京駅 発（のぞみ103号） → 12:50 広島駅 着
※ 昼食（車内） 昼食後 広島駅→ひろしま国際ホテル（タクシーにて移動）
13:30頃 ひろしま国際ホテル着

〒730-0032

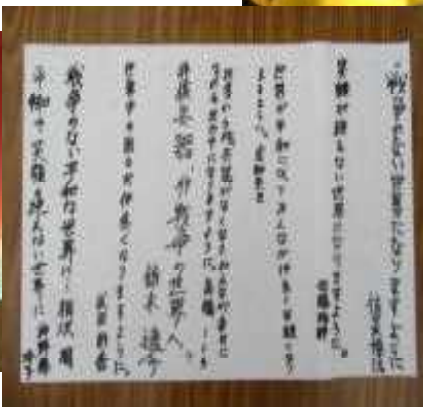
広島県広島市中区立町3-13 電話 082-248-2323 FAX 082-248-2622

14:15～15:30 平和公園内碑めぐり 千羽鶴奉納 原爆ドーム見学
※ 広島観光ボランティアガイド イタノマサオ様 ○お礼の言葉（佐藤玲那）
15:30～ 平和記念資料館見学 ～16:45 ホテル戻り
18:00～ 夕食（お好み焼き）及び市内散策 20:00
20:30 ミーティング 健康観察
21:30 就寝



【8月6日（日）第2日】

～6:00 起床・準備
 6:00 朝食（服装を整えて） ※団員健康観察
 7:20 ホテル発
 7:40 広島平和記念式典受付 ※自治体受付
 8:00 開会 → 8:45 閉会
 9:00頃～ ホテル戻り ※着替え後、すぐ出発
 ホテル…（徒歩）…立町駅（広電）9:44…宮島口駅10:36
 10:45 宮島口桟橋
 10:50 航路にて、宮島へ移動
 11:00 宮島桟橋 ※ガイドさんと合流
 11:15 昼食
 12:20 厳島神社 島内散策 みやじマリン見学
 15:00 宮島桟橋発 → 15:15 宮島口桟橋着
 15:30 宮島口駅 … 立町駅（広電）
 16:40 ホテル着
 18:00～灯籠流し参加 夕食 ミーティング 健康観察
 21:30 就寝



【8月7日（月）第3日】

～ 起床・朝食 ※団員健康観察

8:00 被爆体験講話（ホテル内4階水晶）

※ 講師 ヤギ ヨシヒコ様

①はじめのことば ②団体紹介（高橋こころ） ③講話

④質疑 ⑤お礼の言葉（佐々木倅汰）

※安田女子高校訪問は中止（台風の影響による）

学校法人安田学園 安田女子中学校・高等学校

〒730-0001 広島県広島市中区白島北町1-41

【TEL】 (082) 221-3362 (082) 221-3304

【FAX】 (082) 212-0300 (082) 222-6503

10:03 広島駅 発（のぞみ156号）→ 14:03 東京駅 着

※ 車中にて昼食

15:00 東京駅 発（やまびこ143号）→ 16:18 郡山 着

※ 車中にて夕食

16:45 郡山駅 発 → 16:58 本宮 着

17:05 解散式（お迎え：教育部長、教育総務課長、渡辺大山小校長、佐藤大玉中教頭、近野玉井小教頭、指導主事）

○開会 ○到着あいさつ（鈴木遥介） ○教育委員会から ○団長あいさつ

17:20 解散 本宮駅





團員報告書



未来へ伝え続けること

大玉村立大玉中学校 3年 武田 彩香

1 はじめに

私は広島派遣事業に参加することを知ったとき、自分が参加するなんて思ってもいなかったのととても驚きました。それと同時に、広島で見たこと、聞いたことを村の皆さんに上手にお伝えすることができるか不安でした。

しかし、行くからには自分が伝えたいことを考えて、しっかり皆さんにお伝えしようと思いました。

2 広島での研修

(1) 広島記念式典

式典には外国人の方がたくさん参加していました。核兵器の被害を受けた日本人だけでなく、外国の方々も核兵器の恐ろしさについて考えているのだと感じました。

私は、「平和への誓い」のある言葉がとても印象的でした。それは、『未来の人に、戦争の体験は不要です。しかし、戦争の事実を正しく学ぶことは必要です。』という言葉です。戦争をこれから二度と起こさないために、戦争・核兵器の恐ろしさを未来の人に伝えていかなければならないと思いました。

(2) 平和祈念資料館

資料館の中には、核兵器の被害を受けた学生服や日用品、火傷をした人の写真、佐々木禎子さんが折った折り鶴など核兵器の恐ろしさが伝わってくるものがたくさん展示されていました。私は見るのが辛くなるような写真を見て、二度と写真に写っているようなことが起きてはいけなと改めて思いました。



(3) 被曝体験講話

被曝体験講話では、実際に被曝された方が一人でも多くの人に核兵器の恐ろしさを伝えたいという思いで話してくださいました。

核兵器が投下されたのは、昭和20年8月6日午前8時15分です。その日は平日だったので、学生はみんな登校しています。小学校では早く学校に来て、校庭で遊んでいた子供もいたそうです。その近くに核兵器爆弾が投下されました。校庭で遊んでいた子供たちはみんな即死してしまったそうです。

また、街は核兵器によって一面焼け野原になり、核兵器が落とされる前は建物で隠れて見えなかった瀬戸内海の近くの山などが見えるようになっていたと教えてくださいました。

語り手さんは、「このような出来事があったことを一人一人が家族や友だちに伝えて、どんどん広がってほしい」と願っていました。

3 研修を振り返って

研修に参加して、『伝え続ける』ことが大切だと学ぶことができました。また、核兵器は尊い命や人間の人生を簡単に奪ってしまう恐ろしい道具だということを改めて知ることができました。

広島派遣事業に参加できたことは、とても良い経験になりました。ありがとうございました。

広島研修に参加して

大玉村立大玉中学校 3年 鈴木 遥介

1 はじめに

僕が広島研修に参加する前、原爆について学校で習ったことぐらいしか知りませんでした。例えば、原爆が投下された日やどこに投下されたかなど、そのような事しか知らなかったため、今回の研修で被爆者がどのような影響を受けたかなどの原爆についてもっと詳しく知りたいと思いこの研修に参加しました。

2 研修の実際

(1) 原爆ドームとドーム周辺

僕達は広島について、1日目に原爆ドームに向かいました。テレビでは見たことがある建物でしたが、実物を見たことはなかったのでとても迫力を感じました。20年の議論を経て残されることが決まった原爆ドームは原爆の恐ろしさを感じさせる歴史的建造物でした。また、近くには千羽鶴を掛ける場所があり、そこには全国各地から持ち込まれた鶴が飾られていました。



(2) 平和記念式典

式典では安倍内閣総理大臣をはじめ、広島県知事や子供代表などたくさんの代表者が原爆の恐ろしさや命の尊さ、平和の大切さを参加者と世界中に語りました。僕は、はじめは式典の大切さをそれほど感じることはできませんでした。しかし現地に実際に行ってみて35度の猛暑にも関わらず会場からあふれるぐらいの数の人を見て本当にびっくりしました。

また、人生の中で出ることがなかなかできないこの平和記念式典に出ることができ、本当に光栄でした。

(3) 被爆者体験講話

講話では、実際に原爆を体験したことのある方が当時の状況や広島の様子など様々なことをお話してくださいました。いろいろな事を聞いた中で僕が一番印象に残ったことは、当時の広島の様子です。当時は10秒ほどで広島が焼け野原になったということです。ほかの話もすべて戦争の悲惨な姿がすべて分かってとても悲しい気持ちになりました。

3 研修を振り返って

世界で二つしかない被爆地、広島に行き様々な行事に参加して感じたことは、平和であることがどれだけ幸せかということです。普段何気なく過ごしているこの日々が本当に幸せなことなのだと実感しました。これからはこのことを考えるだけでなく、たくさんの人に伝えていきたいと思います。

このような体験ができてよかったです。本当にありがとうございました。

つなぎたい，平和への思い

大玉村立大山小学校 6年 高橋 ころろ

1 はじめに

今回，広島派遣団員として参加させて頂くことが決まり，「私が参加して大丈夫なのだろうか。」と不安の方が大きかったです。事前研修の時，派遣事業の目的を知り，「この貴重な機会を無駄にはしてはいけない」「自分の目でしっかり見て，広島の人々の言葉を心に受け止め，原爆についての知識を高めたい」そして，村の代表として参加させて頂くことに感謝し，「広島で感じたことを私の言葉でみんなに伝えたい」そう強く思いました。

また，この機会におおたま学園派遣団員との友情を深め，「不安」を「自信」に変えられる研修にしたいという思いで参加しました。

2 研修の実際

(1) 広島平和記念資料館

資料館に展示されている被爆者資料や遺品は，当時の恐ろしさや悲惨な光景を物語り，それは私にとって，想像を超えるものばかりで，目にした瞬間，言葉を失いました。

展示品の中の「くろいくろい雨，大きなつぶの雨，空に向かって口を大きくあけました。からだの中があつくてあつくて水がほしかったのです。」という高蔵信子さんの詩が目にとまりました。数々の衝撃的な展示物を見て，当時の事を思うと胸がしめつけられるくらいの恐ろしさと悲しみがあふれ出してきました。

(2) 広島平和記念式典

原爆投下から72年目となる今年。毎年テレビで見ているこの式典に，参加させて頂き，想像以上の参列者の多さにびっくりしました。そこには，今まで感じたことのない緊張感があり，式典の中でのたくさんの方々の言葉ひとつひとつに，しっかりと耳を傾けました。中でも，私と同じ6年生による「平和への誓い」の言葉が心に残っています。「一人一人の命の重みを知ること，互いを認め合うこと，まっすぐ世界の人々に届く言葉で，あきらめず，粘り強く伝えていきます。」という力強い言葉が私の心にしっかりと刻み込まれました。

原爆投下時刻の8時15分の黙とうでは，今までとは違った気持ちで「全世界が平和に暮らせますように。」と心の底から祈りました。

3 研修を終えて

1発の原爆は，無差別に多くの尊い命と夢を奪い，生き残った人々の人生を大きく変えました。今年，「核兵器禁止条約」が出来たものの，賛成しているのは122カ国で全ての国ではないことを知り，がく然としました。

今回，実際に広島へ行き，原爆の跡地を目にした時のことは忘れられません。「百聞は一見にしかず」とはこのことだ，と思った瞬間でした。

そして，改めて「この世の中から全ての核兵器をなくし，誰もが平和な暮らしが出来るようにしてほしい。」という気持ちが強くなりました。今回の研修を通して学んだこと，そして2泊3日一緒に過ごした仲間との友情の絆は，私にとって最高の財産となりました。

研修において，お世話になったたくさんの方々に感謝します。ありがとうございました。



かく 核兵器のおそろしさ

大玉村立大山小学校 6年 佐々木 倖汰

1 はじめに

今年の広島平和記念式典派遣事業への参加者に、ぼくが選ばれました。ぼくは、それまで戦争や原爆についてあまり興味がありませんでした。でも、参加することによって原爆のこわさや戦争のはげしさを知ることができると思い、参加させていただきました。



2 研修の実際

(1) 広島平和記念式典

平和記念式典当日は、とても暑い日でした。広島市の松井市長が平和宣言で、「皆さんには、ぜひとも被爆者の声を聞いていただきたいと思います。」と強く言っていました。当時15歳だった方や、17歳だった被爆者の話、世界の人々と共に核兵器の無い平和の実現に向けて力をつくすことをちかうというお話を語っていました。

それから安倍総理も、核兵器の無い世界に向け、努力を積み重ねてまいります、と強く語っていました。その2人の話を聞いて、ぼくは、核兵器がどんなにこわいか、被爆者がその時どれだけ平和を願っていたかとても良く知ることができました。

(2) 広島平和記念資料館

平和記念資料館では、焼けた三輪車や焼けこげた服やお弁当箱、さらに、やけどした人の写真などいろいろな物がありました。その中でも、ぼくが一番印象に残ったのは、広島に原爆を落とされた時を再現した映像です。その映像は、直径4メートルの爆だんが広島に落ちてわずか10秒で広島が無くなり35万人の内、14万人が亡くなった時の様子を描いたものでした。ぼくは、映像や物を見て原爆がいかにこわいものなのかがよく分かり、二度とこのような事が起きてほしくないなと思いました。

(3) 被爆体験講話

被爆体験講話では、八木さんという被爆体験者の方がいらっしゃって当時の事を細かく教えてくださいました。エノラ・ゲイという飛行機がやってきて1つの原子爆弾を落として、ピカッと光ったしゅん間、爆発を受けた人はほぼ即死だったそうです。学校の教室はつぶれ、爆だんが落ちた中心は100万度で原爆ドーム付近の爆発時の温度は3000度で、生き残った人は、死んでしまった人より少なかったそうです。やけどを負った人は、川の水を飲みそのまま死んでしまった人がとても多く、川が死体でいっぱいになるくらいの方が亡くなったそうです。その時八木さんは、つぶれた学校の教室にいて、つぶされた時に、奇せき的に教室のすき間にいて助かったそうです。その話を聞き、ぼくがもしその場にいたらと考えるととてもこわくなり、鳥肌が立ちました。

3 研修を終えて

今回の研修に参加させていただいたことで今のぼくたちはどれだけ平和な暮らしをしているのかを良く知りました。もう二度と戦争が起こらないことを願っています。

今の私ができること

大玉村立玉井小学校 6年 金 那奈世

1 はじめに

私は、8月5日から7日までの3日間、大玉村の広島派遣事業に参加しました。参加するにあたり、自分は玉井小の代表、大玉村の代表として広島に行くんだということを意識して、学んだことは家族や友達にしっかり伝えようと考えました。

2 研修の実際

(1) 原爆ドームと平和記念資料館

原爆ドームは、見ているだけで72年前のできごとが伝わってきました。鉄骨のところ以外はほとんどが溶けてしまっていて、ドームの周りにちらばったがれきを見たとき、たった一瞬の爆発がこれほどまで強いものなのかと、私はとてもおどろきました。

平和記念資料館では、おそろしい光景の展示をたくさん見ました。爆風で吹き飛んだガラスが突きささって血だらけになった服、人の白骨が混じったがれきなどが展示されていました。特に、私は被爆した三輪車を見て、罪のない幼い子どもたちを無差別に殺してしまう原爆はおそろしいと思いました。また、「くろいくろい雨 大きな つぶの雨 そらにおおきくくちをあけました あつくてみずがほしかったからです」という文を見て、その子がどんな気持ちで黒い雨を飲んだのかと思うと、私の心はとても痛みました。



(2) 被爆体験講話

3日目には被爆体験講話で講師の方に話を聞きました。その方は当時11歳だったので、原爆が落とされたときは小学校の校舎の中にいて助かったそうです。校庭にいた友達や先生は、原爆の被害にあって亡くなってしまったそうです。家に戻ってみると辺りは焼け野原で、お母さんやお父さん、妹は原爆で皮膚が溶けてしまい顔は分からず、着ていた服装で自分の家族だと判断したそうです。この話を聞いて、当時の広島はすごくおそろしい様子だったのだと思いました。

3 研修を振り返って

私が生きる今は平和な世界でも、いつ私達の所にも爆弾やミサイルが落とされるかわかりません。たった一発の爆弾で、何千人、何万人という大勢の人が命を落としてしまったという事実は、私達が後世にずっと伝えていかなければならないと思いました。

原爆のない世の中、戦争のない世の中を実現するため、私はこの3日間の研修で学んだことを周りの人達にきちんと伝えていくことが私にとってできることではないかと考えます。そうすることで、これからもずっと平和な世の中をつくる一歩をふみ出すことができると 생각합니다。

他人事としてとらえないために

大玉村立玉井小学校 6年 佐藤 玲那

1 はじめに

私は、この広島派遣事業を通して、戦争の激しさ、おそろしさ、また命の大切さを改めて知りたいと思い、この事業に参加させていただきました。そして、この3日間で学んだことをたくさんの人に伝え、平和な未来へのかけ橋をちょっとでもつくれるような一員になれたらと思います。

2 研修の実際

(1) 平和記念資料館

平和記念資料館には、原爆によって被爆された方の写真、原爆が投下された後の広島の様子、亡くなられた方の遺品、人とミサイルの大きさを比べた物などたくさんの物が展示されていました。どれも思わず目をそらしたくなるようなものばかりでした。展示されているものを見ただけでも怖くて悲しい気持ちでいっぱいになりました。資料館にはさまざまな人種の外国人の方も多く来ていて、戦争に対する広島の想いが他国の方にもしっかりと伝わっているということを私は感じました。

(2) 平和祈念式典

私は、これまで毎年テレビで見ていたこの式典に参加できて、とてもありがたく思いました。また、たくさんの方のスピーチを聞いて、平和な世の中であってほしいという想いがさらに強くなりました。

式典では、広島市長さんが「絶対悪」である核兵器の廃絶と世界平和への実現に向けて力を尽くすことを全世界に向けて強く発信されていました。「平和への誓い」を語った子ども代表の広島の6年生は、「戦争の事実をまっすぐ世界の人々に届く言葉で、あきらめず、粘り強く伝えていく。」と語っていました。同じ世代である私もその一人になれるように、あの原爆によって多くの命、多くの夢が失われてしまった悲しさを伝えていきたいと思います。

3 研修を振り返って

この研修に参加して、私は命の尊さ、戦争のおそろしさを知ることができたし、平和への想いもさらに強くすることができました。これから先の世の中が戦争のない、誰もが笑顔で暮らせる世の中であるために大切なことは何か、自分が知らない出来事だからこそ、戦争を経験された方と一緒に考える必要があると思います。戦争を他人事としてとらえないためにも、世界中の人々にこの想いが伝わってほしいです。

私は、このようなとても貴重な体験をさせていただいたみなさん、支えてくださったみなさんにとっても感謝しています。ありがとうございました。



平和な未来を築く

大玉村立大山小学校 教頭 相沢 周

今年度で8回目を迎えた「大玉村立小中学生広島平和式典派遣事業」は、8月5日から7日の3日間にかけて実施された。

平和記念式典前日の8月5日、広島に到着した私たち派遣団員は、爆心地を経て平和記念公園を見学した。日本及び世界中からの訪問者が年間170万人を超える平和記念公園。そこは、原爆ドームや平和記念資料館のもつ戦争や核兵器の恐ろしさがひしひしと伝わる得も言われぬ重苦しさ、平和への願いを胸にした世界中の人々の笑顔にあふれた希望と明るさが交錯する、独特の雰囲気をもつ場所であった。

一瞬にして全てを奪った核兵器の凄まじい破壊力を想起させ、圧倒的な存在感を放つ原爆ドーム。多数の遺品や写真資料に表れる被爆の現実と被爆者の思いを感じる平和記念資料館。それらを見学し、私たちは戦争や核兵器の恐ろしさ、悲惨さを正に目の当たりにした。その後、私たちは、大玉村の子どもたちが平和を願って折った千羽鶴を奉納した。奉納した私たちの千羽鶴と一緒に輝く、個人や団体から奉納されている数え切れないほどの千羽鶴。そこにある千羽鶴の量の多さに、世界中のいかに多くの人たちが平和を願っているのかを肌で感じる事ができた。

明けて8月6日、平和記念式典当日。朝から大変暑い日となった。会場は原爆死没者を慰霊し、恒久平和を願う多くの人たちで埋め尽くされていた。厳かな雰囲気の中、私たち8名は本村の代表としての自覚をもちながら、記念式典に参加することができた。死没者名簿の奉納に始まり、式辞、献花、黙とう・平和の鐘、平和宣言と続く。何よりも心を打たれたのはその後の子ども代表による平和への誓いである。「未来の人に、戦争の体験は不要です。しかし、戦争の事実を正しく学ぶことは必要です。一人一人の命の重みを知ること、互いを認め合うこと、まっすぐ、世界の人々に届く言葉で、あきらめず、粘り強く伝えていきます。広島の子どもの私たちが勇気を出し、心と心をつなぐ架け橋を築いていきます。」この誓いの言葉は、今回参加した大玉村の6名の子どもたちの心の中にも、しっかりと刻みこまれたことであろう。今後、この6名を中心に、大玉村の子どもたちには、広島の子どもたちと一緒に、世界中に向けて命の重みを伝え「心と心をつなぐ架け橋を築く」努力をしていってほしいと心から願った。

最終日となる8月7日は、台風の接近に伴い残念ながら予定していた安田女子校との交流は実施することができなかった。しかし、被爆体験者である八木様より大変貴重な体験談を伺う機会は計画通り実施することができ、私たちはさらに平和への思いを新たにした。

この3日間、派遣団員の子どもたちは戦争の恐ろしさに触れ、平和への思いを強くすることができ、本事業のねらいを達成することができた。一方、この派遣ではそのほかにも大きな成果を得ることができた。それは、団員同士の心のつながりが構築できたということである。中学3年の鈴木遥介さん、武田彩香さんは、宿泊を伴い不安もあるであろう小学生4名に対して常に優しく気遣い、声を掛け、期間中を通して本当によきお兄さん、お姉さんであった。その温かい気遣いを受け、大山小の高橋ころろさん、佐々木倅汰さん、玉井小の金那奈世さん、佐藤玲那さんは、学校の違いを超え、互いに会話を楽しみながら、終始明るくのびのびと一緒に各活動に参加することができた。3日間を通して、学年、学校の枠を超えて常に笑顔で過ごすことができた6名。その笑顔に、本事業のもう一つの大きな成果が表れていた。

この事業を通して、私たち派遣団員は大変貴重な体験をすることができた。私たちのこれからの大きな役目は、この体験を真に意義あるものにするため、被爆地の実状や思いそして平和の尊さをこの大玉村を中心に積極的に発信する努力をし続けることである。このことを強く自覚し、私たちはこれからも平和な未来を築く活動に精一杯取り組んでいきたい。

多くの人に広島を訪れてほしい ～「戦争」を語り継ぐということ～

大玉村教育委員会 学校教育係長 神野藤玲子

8月5日の朝、大勢の保護者・関係者のみなさんに見送っていただき、私たちは広島へと向かった。新幹線での長い長い移動となったが、距離が進むにつれ打ち解けてきた団員のみなさんは、疲れを見せることなく無事広島駅に到着した。

「広島は暑い」と聞かされていたので暑さに対しての心構えはしていたが、広島駅に降り立った時の熱気は福島での暑さとは違うものを感じた。

当初は、ホテルに荷物を置いてからこの日最初の研修地である平和記念公園で、ボランティアガイドの板野さんと待ち合わせの予定であった。しかし、私が初めて訪れることを事前にお伝えしていたためか、板野さんはホテルまで迎えに来てくださり、途中、爆心地等を経由し平和記念公園まで案内してくださった。次の日が平和記念式典ということもあり、公園には世界各国の人々が訪れていた。これだけ広島は世界から関心を持たれている地なのだと感じた。

平和記念公園で最初に目に入ったのは、やはり原爆ドームであった。テレビや写真ではよく目にしていたが、実際に目の当たりにするとその存在感に圧倒された。72年もの間崩れることなく、当時の惨状を伝えることが使命だと言わんばかりにそびえ立っていた。

板野さんと別れた後、私たちは平和記念資料館を見学した。今年は本館が改装中であったため東館のみの見学となった。通常よりは展示物が少なかったが、団員のみなさんは混雑の中でも一つひとつの展示物を真剣な眼差しで見学していた。カメラだけでなく、自分の目や心にもしっかりと焼き付けていたことだろう。

初日の研修を終え、夕食には広島名物のお好み焼きを堪能した。子どもたちといろいろな話をしながら楽しい時間を過ごした。

8月6日、研修の最大の目的である広島平和記念式典に出席した。人のかき分け会場に入り開式を待った。毎年テレビでは見ていたが、実際に会場に入ると独特の空気にのまれそうになった。会場の外側の通路にもたくさんの人が並んでおり、平和を願う人がこんなにも大勢いるのだと痛感した。こども代表の『平和への誓い』の中で、「未来の人に、戦争は不要です。しかし、戦争の事実を正しく学ぶことは必要です。」とあり、折角いただいたこの機会に、この広島の地でしっかり学んでいこうと心を新たにした。この日も朝からとても暑い日だったが、団員のみなさんは整然とし素晴らしい態度で式典に臨むことができた。

午後は世界遺産の島「宮島」を訪れ、大鳥居、厳島神社などを見学しながら島内を散策した。宮島では、もう一つの広島名物「カキ」を堪能した。普段「カキ」を食べたことがないと言っていた団員も、カキフライに挑戦し美味しくいただくことができた。本場の「カキ」は格別だったようだ。

8月7日最終日、出発前から心配していた台風が接近していたため、予定していた安田女子高校への訪問を取りやめ、被爆体験者講話のみの研修となった。講師の八木さんには、帰村の時間を早めるため、講話の時間を1時間繰り上げたにも関わらず快く対応していただき、短い時間の

中でもスライドを使いなら当時の様子を語ってくださった。当時小学5年生だった八木さんは、学校で被爆した。みんなが外で遊んでいたので、自分も外に出ようと思っていた時に爆撃を受けたそうだ。八木さんと妹さんは助かったが、その他の家族は遺体も見つからなかったそうだ。戦後50年経った時に、初めて家の墓に亡くなった家族の名前を刻んだとのことだが、その時初めて「私の戦争は終わった」と感じ節目という気がしたという八木さんの言葉がとても心に染みた。50年という長きにわたり、八木さんは戦争に苦しめられていた。世間が戦争を忘れかけている中でも、八木さんのように戦争が終わっていない方がどれだけ大勢いるのだろう。そう思うと、心が締め付けられた。八木さんは、この被爆体験の話を若い世代に伝えることによって、永く継承してほしいと願っているとおっしゃった。語り継がれることにより、亡くなった方の供養になるのではないかと思う。

講話の後は、台風に追われるように帰路についた。全員元気に帰村できたことがなによりであった。

戦後72年。とてつもなく長い年月が過ぎ、戦争が忘れ去られようとしている。ただ広島と長崎は、戦争をしてはいけない、忘れてはいけないという思いで毎年平和記念式典を迎えているだろう。私たちも、他人事でなく過去にこの国で起きた惨劇を、次の世代に伝えていく責務がある。今回の研修は、そのことを改めて考える機会となった。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった関係各位、また団長の相沢教頭先生はじめ小中学生団員のみなさんと、充実した研修を終えられたことに深く感謝申し上げ、私の報告とさせていただきます。

ありがとうございました。

資

料



大玉村立小中学生広島平和記念式典派遣事業実施要綱

（目的）

第1条 この要綱は、村立小中学生を広島平和記念式典に派遣し、平和の尊さ、核兵器の悲惨さを学び、同世代の児童生徒に命の尊さを伝えていくことにより平和教育の推進を図ることを目的とする。

（派遣内容）

第2条 派遣の内容は、以下のとおりとする。

- （1）広島平和記念式典への参加
- （2）被爆体験の聴講
- （3）広島県の文化遺産等の見学
- （4）その他、平和教育の推進に必要な研修

（派遣対象者）

第3条 派遣対象者は、大玉村小中学生人権作文コンテスト作品を参考として小学6年生及び中学3年生を対象に、原則として各校2名ずつ選考する。

2 派遣対象者のうち、前年度以前に派遣された者については対象者から除外する。

（随行者）

第4条 村はこの事業を実施するに当たり、原則として村立小中学校の教諭1名及び役場職員1名等を随行者として参加させるものとする。

（経費の負担）

第5条 派遣に要する経費は、予算の範囲内において村が負担する。ただし、個人の用に供すると明らかに認められる費用については、派遣児童及び生徒が負担するものとする。

（事前、事後研修）

第6条 教育委員会は、派遣児童及び生徒に対して派遣の出発前又は派遣の終了後において必要と認める場合は、事前又は事後の研修を実施するものとする。

（事後報告）

第7条 派遣児童及び生徒は、派遣終了後、1ヶ月以内に感想文を教育委員会に提出し、教育委員会はこれを基に報告書を作成するものとする。

2 各学校は、派遣児童及び生徒の事後報告会を実施するものとする。

（庶務）

第8条 この事業の庶務は、大玉村教育委員会教育総務課が処理する。

（その他）

第9条 この要綱に定めるもののほか、この事業の実施に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年5月19日から施行する。

平成29年度
第8回大玉村小中学生広島平和記念式典派遣事業

事前説明会・研修会要項

□日時 平成29年7月18日（火）

午後6時30分～午後8時

□場所 大玉村農村環境改善センター
2階 視聴覚室

※ 配付資料確認

1 開 会

2 主催者あいさつ 大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎

3 団長あいさつ 大玉村立大山小学校教頭 相沢 周

4 団員自己紹介

○ 引率団員 相 沢 周（大山小学校 教頭）

神野藤 玲子（教育委員会学校教育係長）

○ 派遣団員 高 橋 こころ（大山小学校 6年）

佐々木 倖 汰（大山小学校 6年）

金 那奈世（玉井小学校 6年）

佐 藤 玲 那（玉井小学校 6年）

武 田 彩 香（大玉中学校 3年）

鈴 木 遥 介（大玉中学校 3年）

5 派遣事業の趣旨・内容・日程等の説明 指導主事

6 事前研修 指導主事

7 研修中の役割分担等の確認 指導主事

8 諸連絡

- ・ アレルギー、健康・体調面で心配なことは事前連絡をしてください。（締切式当日まで）
- ・ ワークブック、ハンドブックで事前学習をしておいてください。
- ・ 今日決まった自分の役割分担と安田女子高での「自己紹介」の発表等、事前に学習し、練習しておいてください。

- ・ 今後の日程について

* 7月24日（月） 18時30分～20時 結団式 ※印鑑持参

* 8月25日（金） 報告書（原稿）／写真データの提出

* 9月22日（金） 18時30分～20時30分 報告会

9 閉 会

平成29年度 第8回
大玉村小中学生広島平和記念式典派遣事業

結 団 式 要 項

◆日時 平成29年7月24日（月）午後6時30分～午後8時

◆場所 農村環境改善センター 1階 多目的ホール

進行：教育総務課長兼教育総務係長 橋本 哲夫

1 開 会 大玉村教育委員会教育長職務代理者 伊藤 忠和

2 主催者あいさつ 大玉村教育委員会 教育長 佐藤 吉郎

3 団員自己紹介

- 引率団員 相 沢 周（大山小学校 教頭）※団長
神野藤 玲 子（大玉村教育委員会学校教育係長）
- 派遣団員 高 橋 こころ（大山小学校 6年） 佐々木 倖 汰（大山小学校 6年）
金 那奈世（玉井小学校 6年） 佐 藤 玲 奈（玉井小学校 6年）
武 田 彩 香（大玉中学校 3年） 鈴木 遥 介（大玉中学校 3年）

4 来賓あいさつ

- 大玉村長 押 山 利 一 様
- 大玉村議会議長 遠 藤 義 夫 様
- おおたま学園長 鈴 木 豊 様

5 来賓紹介 大玉村教育委員会 教育部長 菅野 昭裕

6 派遣事業趣旨・内容・日程等の説明 大玉村教育委員会 指導主事 佐久間 仁

7 千羽鶴伝達

- 大山小6年 菊地 晃汰さん ○ 玉井小5年 渡辺 凜さん
- 大玉中3年 西崎 真桜さん より

※ 千羽鶴受領 派遣団員代表 大玉中3年 鈴木 遥介

8 団員代表あいさつ 団員代表 大玉中3年 武田 彩香

9 諸連絡

- ・本宮駅への送迎について
- ・報告書の作成と報告会の実施について
- ・旅費の取扱いについて
- ・その他

10 閉 会 大玉村教育委員会教育委員 齋藤 雄一郎

平成29年度 第8回
大玉村小中学生広島平和記念式典派遣事業

報 告 会 要 項

◆日時 平成29年9月22日（金）午後6時30分～

◆場所 農村環境改善センター 多目的ホール

1. 開 会 大玉村教育委員会教育長職務代理者 伊藤 忠和

2. 主催者あいさつ 大玉村教育委員会 教育長 佐藤 吉郎

3. 来賓あいさつ

○ 大玉村長 押 山 利 一 様

○ 大玉村議会議長 遠 藤 義 夫 様

4. 来賓紹介 大玉村教育委員会 教育部長 菅野 昭裕

5. スライドで振り返る平成29年度広島派遣事業 大玉村教育委員会指導主事 佐久間 仁

6. 研修報告

○ 派遣団員 武 田 彩 香（大玉中学校 3年）

○ 〃 鈴 木 遥 介（大玉中学校 3年）

○ 〃 高 橋 こころ（大山小学校 6年）

○ 〃 佐々木 倖 汰（大山小学校 6年）

○ 〃 金 那奈世（玉井小学校 6年）

○ 〃 佐 藤 玲 那（玉井小学校 6年）

○ 団 長 相 沢 周（大山小学校 教頭）

○ 引率団員 神野藤 玲 子（大玉村教育委員会 学校教育係長）

7. 講 評 おおたま学園長（大玉中学校長） 鈴木 豊 様

8. 諸 連 絡 ・ 広島派遣報告書の村HPへの掲載の同意について

9. 閉 会 大玉村教育委員会教育委員 齋藤 雄一郎

平成29年度第8回大玉村小中学生広島平和記念式典派遣事業団員名簿

- 団 長 相 沢 周 (大山小学校 教頭)
- 引率団員 神野藤 玲 子 (大玉村教育委員会 学校教育係長)
- 団 員 高 橋 こころ (大山小学校 6年)
- " 佐々木 倖 汰 (大山小学校 6年)
- " 金 那奈世 (玉井小学校 6年)
- " 佐 藤 玲 那 (玉井小学校 6年)
- " 武 田 彩 香 (大玉中学校 3年)
- " 鈴 木 遥 介 (大玉中学校 3年)

平成29年度 第8回

大玉村小中学生広島平和記念式典派遣事業報告書

編 集 : 大玉村教育委員会
(福島県安達郡大玉村玉井字西庵183番地
TEL 0243-48-3138 FAX 0243-48-3493)
発 行 日 : 平成29年9月22日